



日本学術会議主催 公開シンポジウム

事故による 子どもの傷害を予防する

— 子ども中心の新たな予防システムの構築へ —

2022 オンライン開催

7.23 土 14:00
17:00

【開催趣旨】

事故による子どもの傷害は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じ事故が起こり続けています。すなわち、現在、予防策と考えられているものは機能していません。本シンポジウムでは、主に14歳以下の非意図的な傷害の予防を目的に、今、子どもの傷害に関わっている組織の方々に、子どもの傷害についての現状・対応・課題を述べていただき、それらの実態に対して科学的にどのように取り組み、どうしたら子どもの傷害の発生数を減らすことができるか、どのようなシステムが必要かについて議論します。

第1部

14:00-14:50
傷害予防の現状と課題

第2部

15:00-15:50
データを収集・活用するための学術

第3部

16:00-17:00
【総合討論】 Data to Design
データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

主催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会

【問い合わせ】 NPO 法人 Safe Kids Japan (e-mail: info@safekidsjapan.org)

公開シンポジウム
「事故による子どもの傷害を予防するー子ども中心の新たな予防システムの構築へ」

司会：太田 由紀枝（セーフキッズジャパン プロジェクトマネージャ）

14：00 開会挨拶

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

14：10-15：00 【第1部：傷害予防の現状と課題】

わが国の子どもの傷害の実態と課題

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

救急搬送におけるデータ収集の課題

阪本 浩司（東京消防庁 防災安全課生活安全係長）

医療機関におけるデータ収集の課題

岸部 峻（東京都立小児総合医療センター救命救急科医員）

学校管理下の事故のデータと課題

森本 晋也（文部科学省 総合教育政策局 安全教育調査官）

子どもの事故予防への行政（自治体）の取り組み

松田 初弘（東京都生活文化スポーツ局 生活安全課 統括課長代理）

子どもの事故予防への行政（国）の取り組み

消費者庁（登壇者調整中）

15：00~16：00 【第2部：データを収集・活用するための学術】

現場で運用可能な傷害情報収集システムの構築

北村 光司（国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域主任研究員）

表データを利活用するための AI 技術

相澤 彰子（日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）

プライバシーを保護したデータ利活用に向けて

宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授）

身体活動増進を介して子どもの事故を減らす学校環境デザイン

伊香賀俊治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）

子ども・保護者の視点に立つ事故予防の生活デザイン

神吉紀世子（日本学術会議連携会員、京都大学工学系研究科建築学専攻教授）

新たな傷害制御学の創造に向けて

西田 佳史（日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）

16：00~17：00 【総合討論】

Data to Design: データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

矢口 まゆ（町田市議会議員）

出口貴美子（NPO 法人 Love & Safety おおむら代表）

第1部、第2部講演者

閉会挨拶

西田 佳史（日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授）